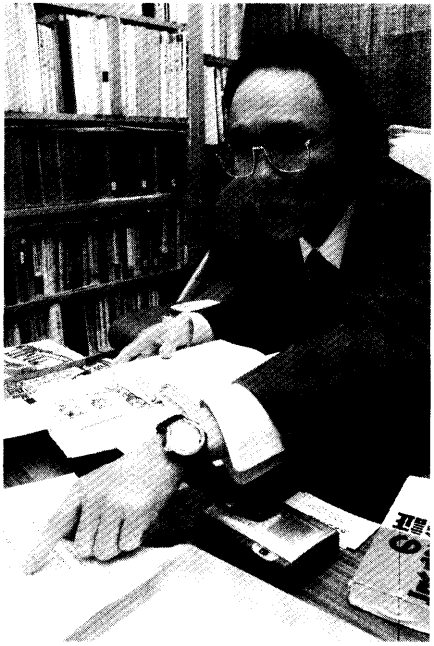
によりますと、ベイツ教授の書いた原稿が先の2人の記事のニュースソースとなっていたからです。なぜ彼はこのようなことをしたのでしょうか。

ともあれ両記者が南京虐殺を報じたことは事実です。しかし南京虐殺が報道されたことは事実であっても、報道の内容が事実であったかどうかは、また別の問題です。

そこで南京陥落から南京出港までの3日間にかんする両記者の記事を詳細に検証すると、それは事実と大きくかけ離れていることが判明しました。なぜそのような事実からかけ離れた記事が出たのか。それを考えるとき、一九三九年に国民党中央宣伝部に顧問として雇われたセオドア・ホワイト氏の次の回想が思い起こされます。ホワイト氏はこういっていました。

「実際にはアメリカの世論を操るために私は雇われていたのである。日本軍に反対するアメリカの支援こそが、この政府が生き残るのため唯一の望みであった。アメリカの印刷出版物を支配することが重要であった。アメリカの新聞雑誌にウソをつくこと、だますこと、中国とアメリカの未来はともに日本に対抗していくことにあるとアメリカを説得するためなら、どんなことでもしてよい、それは必要不可欠なのだと考えられていた」



両記者の記事が国民党中央宣伝部の工作に基づいたものだったのか。その確証はありませんが、その延長線上にあった可能性は否定できません。そのことについては『南京事件 国民党極秘文書から読み解く』をお読みください。

ついでにいっておきますが、当時の人たちは当然この記事を読んでいました。特に疎開先から南京に戻ってきた米、英、独の外交官たちはそうでした。これが